

平成26年度 南房総市行政改革推進委員会 第1回会議録

- ・開催日時 平成26年7月16日(水) 午後2時～3時40分
- ・開催場所 南房総市役所別館1 1階大会議室
- ・出席委員 石井洋子委員 大和田愼一委員 八代弘樹委員 黒川操委員 飯田彰一委員
寺澤利郎委員 関壽夫委員 渡邊富夫委員 鈴木健史委員
- ・市側出席者 市長 副市長 総務部長 企画部長 保健福祉部長 市民生活部長
農林水産部長 商工観光部長 建設環境部長 富山国保病院事務長 水道局長
会計管理者 教育次長 議会事務局長 朝夷行政センター副所長
総務課長 行革財政課長 企画政策課長
行革財政課課長補佐兼行政改革推進係長 同副主幹 同課財政係長
総務課総務グループ長 同主査
- ・次 第
 1. 開 会
 2. 副会長あいさつ
 3. 本部長あいさつ
 4. 新委員紹介
 5. 会長選出
 6. 議 事
 - (1) 行政改革推進計画の平成25年度取組状況報告について
 - (2) 第3期行政改革推進計画の策定について
 - (3) 第3期財政健全化計画の策定について
 - (4) その他
 7. その他
 8. 閉 会
- ・公開又は、非公開の別
公開
- ・傍聴者 0名

●要 旨

1. 開 会
2. 副会長あいさつ
3. 本部長あいさつ
4. 新委員紹介
5. 会長選出

委員の互選により、会長に飯田彰一委員に決定した。

6. 議 事

(1) 行政改革推進計画の平成25年度取組状況報告について

- ・第2期行政改革推進計画の平成25年度取組状況の概要について説明。

【主な意見】

委 員 資料2について、事業の重要度や進捗状況が分かりにくいので、第3期計画では各年の達成度等を数値で分かるようにした方が良い。また、これまで継続している事業も大切だが、新たな革新的な取り組みについて、委員会で議論していきたい。

総務部長 これからの市の状況や取り組む内容について、いただいた意見を反映した資料を作成し、委員会で意見を伺っていくようにしたい。

委 員 実施計画の中で、数値目標のある項目が少ない。数値目標がないとPDCAサイクルで評価しづらい。他の自治体では進捗状況をパーセンテージで表しているところもあるので、できるだけ数値化した目標にした方が良いと考えるがいかがか。

総務部長 数値目標を設定するのが難しい事業もあるが、極力数値目標を入れて説明できるようにしていきたい。

委 員 公共施設再編について、学校再編ばかりのようだが、他の公共施設の再編はどのようなものがあるか。

総務部長 市では、学校施設の再編を進めているが、全体的な公共施設再編の考え方としては、廃止できる施設については廃止し、その跡地利用について検討した結果、使用する目的のない土地については売却している。しかし、公共施設について統廃合等

の検討をしているが、なかなか学校施設以外では、統廃合が進んでいないのが現状である。近い将来、財政的にも厳しい状況になることが予測されるので、全体を見渡した中で、統廃合を進めていきたい。その際には、委員の皆様を示していきたいと考えている。

委員 公共施設再編について、7町村が合併し行政改革を進めている中で、旧町村にあった施設を統合させ縮小していくものだと考える。そのような状況で学校再編が進められていると思う。例えば富浦幼保一体施設整備の話があるが、旧町村ごとに同じような施設を整備する必要があるのか。行政改革の考え方が異なっているのではないか。また、この委員会でも諮っていくべきではないか。

市長 行政改革とは、単なる経費の削減だけでなく、効率的・効果的な行政運営を実施していくことだと考えている。広い意味では、行政改革は市政全般である。本日は平成25年度の行政改革実施状況の報告をしたが、委員の皆様が思うことをテーマに議論する場でもあると考えている。富浦幼保一体施設整備の件も、この委員会で議論する必要があるべきだと考えるが、富浦幼保一体施設整備の件は、すでに議会での承認を得ている。

委員 学校再編で、千倉地区で幼稚園・小学校がいくつも廃校となったが、跡地利用について、スポーツ施設を整備してはいかがか。市内には、硬式野球が出来るのは千倉B&Gしかなく、シーズンに少しのチームしか受け入れる事が出来ない。サッカー場についても整備し多くのチームを受け入れられたら、宿泊客の増加にもなるし、市へも使用料が入るので考えてもらいたい。

市長 学校跡地利用について、地元の方の跡地利用の考え方を伺いながら、有効活用を考えていかなければならない。千倉の七浦小学校、忽戸小学校については、地元で検討委員会を立ち上げ、公募で意見を伺いながら検討をしている状況であるので、意見として承る。

委員 学校再編について、南房総市の減少していく人口や子供の数に対して、また新しい学校等を整備するようだが、一通りの整備が終了した後、次の学校再編はいつと予

測しているのか。

市長 学校再編について、少ない生徒数を考慮し他地区の学校と統合という意見があるが、先ほどの富浦幼保一体施設だが、通学距離について親や幼児等の負担を斟酌し総合的に判断した結果、富浦地区にも必要だという結論になった。南房総市の1年間の出生数は約190人だが、昔であれば中学校1学年の生徒数である。190人という人数で考えれば、市内には1つの学校があれば十分となるが、通学距離やその負担を考慮すれば現実的ではない。現在進めている学校再編が完了後、人口や児童・生徒数の推移にもよるが、その後の再編は今時点では考えていない。

教育次長 学校再編計画については、平成29年度までとなっており、それにより再編を進めているが、その後の学校再編は考えていない。

委員 「ふるさと納税の推進」について、効果が出ていないようだが、財源が厳しくなる中、もう少し増やす努力をしてはいかがか。近隣市と比較すると、件数も金額も少ない。

企画部長 少しずつではあるが、効果は出てきている。今後、特典やキャラクターを活用したPRに努めていく。

市長 ふるさと納税は、収入を増やすというより、自治体のPRを目的とした方向になってきていると認識している。これまでは市の応援のためのふるさと納税だという考えが強かったが、今後は自治体のPRを目的とした方法を検討し実施していきたい。

委員 ふるさと納税をしてくれた人に産品を送っているのか。

企画部長 これまでは、産品は送っておらず、ふるさと納税を活用させていただいた事業内容の報告をお礼としていたが、今後は自治体のPRも含め検討していく。

(2) 第3期行政改革推進計画の策定について

市長より飯田彰一会長に諮問書を提出（第3期南房総市行政改革推進計画の策定について）

- ・第3期行政改革推進計画策定における基本的な考え方について説明。

【主な内容】

第3期南房総市行政改革推進計画策定にあたっての基本的な考え方について、第2期計画に引き続き、『新たな仕組みづくり』と『事業の選択と集中の強化』を特に重点的に取り組むべきものとし、これまでの行政改革の取り組みを継続するとともに、より質の高い行政運営のため、6つの重要施策として、「市民との協働」、「事務事業の見直し」、「公共施設再編の推進」、「組織機構の見直しと定員の適正化」、「人材育成による職員の資質の向上」、「歳入の確保」とすることとした。

今後、各部署において6つの重要施策を実行するため、具体的な実施計画を策定していく。

(3) 第3期財政健全化計画の策定について

- ・第3期財政健全化計画策定における基本的な考え方について説明。

【主な内容】

これまでは、合併による財政支援で、蓄えが増え、基金を積立している状況から、今後は、基金を取り崩さなければ賄えないような、急激な収支の悪化が予想される場所であり、市民生活に直結している事業においても、事業廃止、見直しが必要不可欠な状況となっている。

このため、第3期計画では、平成33年度以降の健全な財政運営を目指し、自主性・自立性の高い、財政の基盤をつくり上げるため、中長期的な視点に立った財政健全化の指針として、平成27年度から平成36年度の10年間の計画期間とすることを予定している。

合併による財政支援が終わった後でも、健全な財政運営が図れるようにするため、市の現状を整理し、具体的な取り組みを出来るだけ明確し、財政健全化に向けた、主な財政指標の数値目標も示しながら計画を策定していく。

(4) その他について

【主な意見】

委員 現在スポーツをする人が減ってきている。スポーツ人口を増やしたいが、サークル活動等を周知する場がなく困っている。チラシを市の回覧板に折込みするのは可能か。それには、どういうルールがあるのか。

総務部長 区長からは、市から依頼する文書の量が多く、もう少し減らせないかとの意見がある。しかしながら、スポーツ振興については必要なことと考えるので、関係部署と協議、検討する。

委 員 このところ「市民との協働」とよく言われているが、市民も様々なボランティア活動に参加しているが、活動中にその場を通っても、何の挨拶もしない市の職員がいる。また、市役所の窓口に行っても、自席からすぐ立ち上がる職員とそうでない職員がいるので、気持ちの良い対応を心掛けてもらいたい。

委 員 これからは良いことばかりでなく、合併特例措置が終了し厳しい財政状況になるということを、市民に分かりやすく説明し、理解協力を得ることが大事だと考える。

5. その他

事務局 委員任期満了と改選について

- ・平成26年9月30日をもって任期満了となるため、新委員の選考を行う。

6. 閉 会